

ときがわ町にある、関東最古の寺とされる名刹・慈光寺。信号「宿」から同寺の参道に上る入口に、古民家を活用したギャラリー、寧々房がある。オーナーの澤井かやさんは、仏像も作る陶芸家。ときがわのことを何も知らず偶然この地に店を構えることになったが、実は自分と慈光寺には驚く因縁があることがわかった、と言う。慈光寺は今ほさびれ、かつての栄華からほど遠い姿にある。澤井さんは、慈光寺の歴史を広く知ってもらい、その輝きを取り戻すことが自らの使命と考えるようになった。源氏物語や仙覚（鎌倉初期の学問僧）の研究者である織田百合子さんと出会い、仙覚の出身地である比企地域と慈光寺の栄光の歴史をテーマにした講演会を10月19日にときがわで開いた。澤井さんに、ときがわに移り住んだいきさつや慈

光寺への思いをお聞きした。

# 往時の輝きを再び 慈光寺への理解を訴える

## 陶芸家 古民家ギャラリー・寧々房 澤井かやさん（ときがわ町）

あてどなく探して  
ときがわに

—ときがわに来てどのくらいになりますか  
澤井 8年です。その前は富士見市に住んでいました。

—埼玉の出身なのですか。

澤井 生まれは千葉県で、東京が長かったのですが、その後9年間で6回の引っ越しを重ね、6回目がときがわとなり、腰を据えることになりました。

—元々陶芸家と云ってよいのですか。

澤井 元はフリーで校正の仕事をしていたのですが、母を連れて田舎暮らしでのんびりしようとして47歳の時益子町（栃木県）に行き、趣味で陶芸を始めました。

—どうしてときがわに住むことになったのですか。  
澤井 その後いろいろ変遷がありまして、貯えが底をついてきたので、田舎暮らしと仏像が似合う

澤井 家を探して、富士見市から川越街道をひたすら走ったんです。寄居や、長瀨に行っても、ピョンと来なかった。群馬との境の神流湖まで行った帰り道、神泉村（現神川町）の役場がありました。玄関



慈光寺に上る参道入り口にある古民家がギャラリーにあり、その正面にラックがあり、その中央にときがわのパインフレットがあつたんです。手に取ると、「木のむら」、お寺もある。いいかも、と。それまでときがわを全く知らなかったのですが、それで行ってみようと思いましたが、

家を探そうとしたら、1日でここにたどり着いたんです。今では、呼ばれてきたときかと思えません。ここに至る経緯を少し詳しく教えていただけますか。

ある木工場に入り、「家を探しに来たんです」と言うので、「この先は山ばかりだよ。宿という信号の右側にいい家があるけれど、そこは無理。でも、せっかくならんだから慈光寺にお参りして行ったらどうで

すか」と教えてくれたんです。

―その宿という信号の家が今のギャラリーに。

**澤井** この家の大家さんは週末だけときがわに帰ってこられる方で、実は160年たつ旧家でお借りした表側部分は40年以上使われていず、廃墟同然でした。それでも私はこの家の前に立った時、この家を何とかしなければと思い、とにかく貸してくださいと直談判。「この家はそのまま放つておいたらダメになってしまうのではないですか」と言うのと「よけいなお世話だ」とピシヤリと言われました。それでも食い下がって、仏像の写真を見せたところしばらくしてOKが出たんです。その条件は、1つはときがわに住所を移すこと、もう1つはささら祭りというお祭りを手伝うことでした。

―この土地が実は澤井さ

んにとつて因縁があったということですね。

**澤井** はい。こうして私は何も知らずときがわに来て、ここに住むことになりましたが、実は隠れたご縁があったのです。慈光寺は天台宗のお寺ですが、私の義叔父が天台宗の僧で、叡山学院

獅子踊りを舞うんです。そしてこのささら祭りは、

私の義叔父の住む比叡山の坂本から伝来されていることがわかりました。私の仏像創りのルーツは坂本です。こういうご縁で、目に見えない力に導かれていると実感したわけですよ。

仏像作りのきつかけも

―澤井さんは通常の食器類の他にも、焼き物で仏像を作られています。どうして仏像を。

**澤井** 若いころからモノづくりは好きだったんです。陶芸はぜひやりました。

## 慈光寺との不思議な因縁

(滋賀県大津市)という大学の現院長をしていますが、そして話をうかがうと、慈光寺の若住職は義叔父の生徒だったのです。

それともう一つ驚いたのはささら祭りです。この家の名主時代、武州世直し一揆で襲われたことがあり、鴨居には生々しい刀傷が残っています。西平一の旧家で村の祭りであるささら祭りも中心の役割を果たしていたので、今でもこの家の前で

―結局ときがわで一番歴史のある家を借りることになったわけですね。

**澤井** そうですね。私はときがわのことも、この家のことも大家さんのことも何も知らずに恐いもの知らずで入ってしまったわけですよ。ただ、周りの方にとつては今でもここはとて敷居が高いのだそうです。



処女作

いと思っていましたので、益子に行き、窯業指導所も出て基本を身に着けた2年後、手びねりで何か作ろうと思った時、20年前に言われた「家に仏像が一つあるととてもいいのよ」という言葉が突然頭に浮かんだんです。さきほど言った叡山学院の院長をしている義叔父が住む比叡山の坂本という寺町の庵に若い時に遊びに行った時に、奥さまから言われた言葉です。益子に居た時、その言葉を引きかけに生まれたのが処女作の「如意輪観音菩薩」です。

見ていたらとても自分が癒されて、涙がほろつと出るくらい何か感じたんです。その後群馬に転居したのですが、可愛くできたので、もつともつと、本を見たり実際に旅先で仏像を見たりして、だんだん作り方も進化してきてここまで作れるようになりました。仏教



仏像作品

を勉強したとかはほとんどなくて、ただ自分の思いだけで作っているだけです。

— 仏像はすごく作るのが難しくありませんか。

**澤井** 世の中に焼き物の仏像はきわめて珍しいでしょう。粘土で形を作るといって、焼いてひびが入ったり、欠けたり。大きなものは特に難しいですね。毎回何かしらトラブルがあり、完璧なものは一つもありません。

— どんな仏像を作っているのですか

**澤井** 仏像の種類は無限にあります。その中で形は徐々に決まってきた

るので、別の仏像を見て気持ちが呼応することがあり、その時は今回はこの顔にしよう、この印相にしようというイメージだけ取って組み立てていくの、時間がかかりすぎないのか、かたが、まず土台、次に顔だけひたすら作ります。顔が

## 納骨できる、 供養のための仏像

できると俄然やれる気になりますね。

— 仏像を写すのではなく独自のイメージをお持ちなのですか。

**澤井** 今は自分の内側から出てくるという風に思っています。全体のイメージ、形や印相は踏襲しますが、顔や天衣（てんね）も自分なりのものになってきています。顔については、自分が癒される顔です。

— 普通の仏像より人間に近い印象ですが。

**澤井** 大きな仏像は上から衆生を見るので主に半眼ですが、私のは小さいので目がどうしても向き合います。その方が親しみやすいのではないでしょうか。

— 澤井さんの仏像は遺骨を納めることができますのですか。

**澤井** 仏像も蓮坐も中を空洞にしないと

焼けません。途中からその空洞を何か工夫しようと考えた時に、お墓の代わりにしたらどうかと思っ



蓮座内部が空洞になった仏像

たのです。なので蓮坐の中に遺骨が入られるのです。

子供たちにお墓の管理をさせるのは難しい時代になっていきますから、家に遺骨の一部を置く、と手軽ですし、日々の生活の中ですべても気持ちが悪く落ち着きます。

私も、母はときがわに連れてきて亡くしていましたが、元気なうちに「お骨の一部をちょうだいね」と言ったらニコニコして「いいよ」。

だから家にカケラがあるんです。遺骨があるためにいつもそばにいてくれる気がする。毎日お水とお線香をあげていますし、いつでも向き合うことができている。日常の生活の中で遺族と向き合う心を取り戻すのはいいことだなと、今つくづく思います。

— 仏像を販売しているのですか。

**澤井** 遺骨を入れられる



と説明も書いており、欲しいという方もいらつしやるのですが、今は見ていただくだけでお譲りすることはしていません。私の仏像の最終的な行き先はあると思うのですが、自然の流れの中で生まれてくると思っています。

—今まで何体くらい作られたのですか。

**澤井** 今45体目です。それとは別に、欲しいという方のために小さいお地藏さまを作ってお譲りしています。小さくてもちゃんとしたお地藏さま菩薩さまですから、手を合わせ

せる立派な対象です。—他に作っている食器は益子焼ですか。

**澤井** 益子にいましたが、長くいると影響を受けてしまうので、2年出てあとは全部独学です。釉薬も自分で作っています。

—陶芸作家としての活動はどうですか。

**澤井** 個展も開きましたし、応募して入選

入賞もあります。日本の工芸界は上の門戸が狭いので最近はお出していないので最近はお出していない。今焼き物は難しい時代ですし、寧々房はいずれは供養関連のお店にしようと考えています。お地藏さまのサイズで遺骨を入れるようにしてほしいという声が届いています。すでに供養の形は多様化してきました。私は自然葬を提唱したいです。海の好きな人

1300年以上の歴史、  
関東最古の、国宝のあ  
るお寺  
慈光寺

は海、山の好きな人は山。けれど全部撒かないで、かけらをお地藏さまの中に入れることで考えました。お線香セットと合わせても全部で5〜6万円くらいでできます。

—そういう形で寧々房が發展していくといいですね。

**澤井** ありがとうございます。人間はお金ではないのです。余分なお金があると本来目指す道でな

8年たつてやっと見えてきました。—そのやり方はすでにあります。

**澤井** 仏像に遺骨を収納するというスタイルはあります。これからの時代に、できれば私が広めたいと思います。「舎利庫一体型供養地藏」、自宅供養です。



慈光寺山門

と思います。私に、お金があつたらとかがわに

300年以上の歴史のある関東最古の、国宝のあ

—今回、織田百合子さんの講演会を企画されたわけですが、そもそもどのような経緯からですか。

**澤井** 私はボランティアを集めて、慈光寺のお掃除を5年と9ヶ月させていただきました。1

ていませ。少ない人間はその中で上手にやりくりできるのです。私はいろいろ条件を考えて選ばれた人かもしれないと思っています。私だからできること。小器用に生まれたので、何かとひとりでこなしています。ただ、商才はないですね。商売は難しいですが、目に見えない力で首の皮一枚つながつているんですよ。(笑)。

るお寺なのに、汚れているのがいやで、お掃除するしかないと思います。始めたんです。でも、組織作りは難しいですね。織田さんとの出会いやその他の考えで、いったん引き揚げています。そのエネルギーを、平安時代から鎌倉時代にかけての文化の中心地であった慈光寺の歴史の素晴らしさを皆さんに知っていただくことにシフトしました。関東最古のお寺がときがわにあるというこの町の一番の誇りに思えることだと思います。都会

# 鎌倉と比企をつなぐ夢

からこんなに近いのに、この田舎の良さを上手にアピールできないのが残念でなりません。—これまで、澤井さんが努力してもなかなか地元の人がついてきてくれなかったわけですね。澤井 何はともあれ慈光寺はときがわの顔です。私は顔を洗っているだけなんです。しかし、よそ者がやることを地元の方はよく言わないこともあります。よそ者が余計なことをしているのと反発していると聞きます。そういう方たちと向き合っ

ても平行線なので外堀を埋めるということにしたのです。—織田さんとのどのような出会われたのですか。澤井 織田さんは仙覚さん（鎌倉時代初期の天台宗の学問僧、万葉集研究で知られる）が慈光寺で得度されたという説を取り、慈光寺に取材しにいらしたんです。私がトイレの掃除をしていた時、バッタリ会い、織田さんから声をかけてくださった。その日1日で彼女と3回も会うことになり、3回目にお店の前を通られたのでお誘いし、仙覚さんの話をお聞きしました。



ギャラリー入り口に置かれた夢見じぞう

そしてその後去年の七夕7月7日、店に歴史と文学の好きな方を集めてミニ講演会をしました。それが好評でしたので、それでは織田さんの夢である比企と鎌倉をつなげようとして企画したのです。

## 織田さんの講演会を開く

—イベントの準備は大変だったのではないですか。澤井 去年の7月のミニ講演会に参加できなかった方からぜひまた講演をと言われているので企画です。人に言われるとなぜか私

はひと肌脱いでしまうんです。2週間前に開いた落語もそうですが、それで苦労をしょって、ひとりで忙しい思いをしてみたいです。こんなことをしても全然もうからないんですが（笑）。今回は行政の方たちもチラシを置かせてくださったりでご協力くださいました。地元の方がどれだけ関心を示すかが楽しみです。—今回の企画は意義あるステップという気がします。澤井 鎌倉と比企をつなげるという夢は、いつか実現すると私は思っています。目標はそれです。織田さんと私が出会ったのも、その意味は、かつての一大修験場で高僧も多く輩している慈光寺の現状を嘆いているかつての魂が私を呼んで、織田さんと出会わせてくれたと信じています。だから実現するんです。しかしいきなりはできません。

小さな努力の積み重ねで、まだまだ人間関係とか課題に直面しています。必ず実現する。そうでなければ、織田さんも言っています。私が、「私とかやさんが慈光寺で出会うはずがない」。私もそう思っています。



織田さんの講演会風景 (10月19日)

◇ 織田百合子さんの講演会は、「比企の二大文化遺産―《仙覚の万葉集》と国宝・慈光寺経》―と題して、10月19日、ときがわ町の正法寺で開かれた。山あいの交通の便の悪い場所です。約60名が参加し、織田さんのお話に熱心に聴き入った。

地元の人であろうと、他地域の人であろうと、心ある人は慈光寺の重要性は知っており、何とかしなければならぬと思っ

ている。しかし、具体的な行動は難しい。そうした中、澤井さんは、よそ者の孤立を感じつつ、1人で懸命にがんばっている。

◇ 人によつては、澤井さんのことをややおカルトめいていると思うかもしれない。しかしお話をうかがうと、確かに不思議である。澤井さんが、慈光寺の門前の地に引き寄せられ、何かの役割を課せられているということはあり得る。

世の中を変えていくのは、いつの時代も、澤井さんのような強い意思なのであろう。めげずにがんばってください。

(金子 豊治郎)